

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4110115799
法人名	医療法人 長生会
事業所名	ケアホーム どんぐり
所在地	佐賀市嘉瀬町中原1973番地1 (電話) 0952-26-3210

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年2月12日	評価確定日	平成21年5月8日

## 【情報提供票より】(平成21年1月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	10人, 非常勤 6人, 常勤換算 11.9人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建ての1部分
------	------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	1日当たり 800円		

### (4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.7 歳	最低	69 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	島田病院 (内科・リハビリテーション科・消化器科・歯科・歯科口腔外科)
---------	-------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

佐賀市郊外で母体の病院に隣接するホームとして、医療との連携が充実し健康管理やリハビリテーションにおいても、入居者や家族が安心できる環境である。法人が施設や病院の経験を踏まえ、一人ひとりを尊重することの大切さを意識して設立されたホームであり、理念である「家庭的な雰囲気」を重視している。また、新築で近代的なバリアフリーの環境は明るく、入居者本位のケアの実現に力を入れている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、災害対策として、地域の住民から協力が得られるような取り組みが期待されていたため、今回は消防署にホームの図面を見ていただいたり、民生委員に協力依頼をするなど、改善のため一歩前進した働きかけをしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価を全職員で取り組み、「外出の機会を増やしたい」との意見が出て、現在計画中である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一度家族、民生委員、地域包括支援センター、ホーム職員が参加して運営推進会議を行い、評価の報告をしたり、サービスについての意見交換を行っている。議事録も整備され、ここでの意見をサービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	気軽に意見を言ってもらえるように、面会時の近況報告や誕生会へ参加して頂いて、信頼関係の構築に力を入れている。意見箱の設置により、掃除など環境面への配慮が充実してきた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩に出かけ積極的に挨拶を交わしたり、近くのスーパーに買い物に出かけ顔見知りになるなど、日ごろの付き合いや町内の運動会や夏祭りに参加するなど、交流を深める取り組みをしている。近くの幼稚園へ出かけた時、ボランティアの受け入れもしている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の運営理念の他にホーム独自の「ホームは明るく家庭的な雰囲気をつくり、地域や家庭との結びつきを重視した運営」を理念に掲げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をいつも見える所に掲示している。月1回の会議で理念の実践について振り返る機会を設けたりしている。		
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くのスーパーへ買い物に行き、顔見知りになったり、地域の住民とも積極的に挨拶をかわし、町内の運動会や夏祭りへの参加などで、交流を深めるように努めている。近くの幼稚園との交流やボランティアの受け入れなどもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は意義を理解する為に、全職員で取り組んでいる。職員からも「外出の機会を増やしたい」など意見が出て、計画している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、家族、民生委員、地域包括支援センター、職員が参加して運営推進会議を行い、自己評価や外部評価の報告をしたり、会議の中でサービスについての意見交換をしている。議事録が整備され、ここでの意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	在宅支援センターとの連携により、日常的に相談が出来る状況にある。ホームで作成したパンフレットを市の窓口においている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	月1回金銭管理の報告と共にホーム便りを郵送している。又誕生日には、本人の近況を記入した便りや写真を個別に送付する他、面会時の報告や必要に応じ電話での連絡をしている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	気軽に意見や希望を言ってもらえるように、面会時に近況報告をしたり、誕生会に参加していただくなどサービスの質の向上につなげられるよう努めている。意見箱の設置効果として、環境面への配慮が充実してきている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	法人内異動はホームでの馴染みの関係を配慮し、最小限に抑えている。スタッフが代わる場合は、顔あわせをしてダメージを防ぐように努めている。		
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	外部の研修会へスタッフの希望をとり出席してもらい、会議で報告会を行っている。日常業務の中で、指導育成できるように職員配置にも配慮している。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム間で職員が行き来する機会を設け交流したり、グループホーム協議会に入会し、研修に参加するなど、質を向上させていく取り組みがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が自宅等に出向き、顔見知りの関係をつくったり、数時間、数日の体験入居をしていただくなどの工夫をしている。職員と一緒に過ごす時間をつくりストレスを軽減し安心して入居できるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	これまでの生活歴や得意なことを聞き取り、情報収集に努めそれを活用している。畑での野菜作りや、料理では味付けを教わったり、文化祭へ書道作品を出品するなど活躍できるような支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から本人の思いを聞き取り、ケアに活かすよう努めている。家族とも気軽に開ける関係を築き、出来るだけ希望に添うようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を面会時に聞くようにしている。月1回の会議で、職員の意見を出し合い家族の意向を反映させた計画を作成している。	○	地域でその人らしく暮らしていくことを支えるため、一人ひとりに添ったより個別具体的な計画を作成されることが期待される。また具体的なサービス計画に沿ってサービスを提供し、記録、評価が継続的に行われることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入所後1ヶ月、定期的には6ヶ月に見直しを行うと共に、必要時には随時見直しをしている。評価も3ヶ月ごとに行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制が整い、訪問看護による体調の管理が行われたり、医療が必要になっても、治療を受けながら可能なかぎり入居が継続できる支援をしている。又本人の希望に応じ、自宅近くまでドライブに出かけたり、受診の支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を重視し、それまでのかかりつけ医の診療を継続できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については指針を作成し、入居時に説明し、確認をとっている。入居後も必要に応じ話し合い、方針を共有できる体制がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけや対応は個人の尊厳を大切にしており、介護時にも、プライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「気持ちを最優先にしたケア」の実践に努め、業務中心ではなく、時間の制限をなくすなど、入居者のペースを尊重するよう職員間で意思の統一を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を聞きながら、ホーム独自のメニューを作成し、個々の能力に合わせて、食事の準備や後片付けなど職員と一緒に楽しみながらしてもらっている。職員も同じ食事を食べながら、さりげなく支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴や同性介護など入居者の希望に合わせた入浴支援をしている。入浴を嫌がる方には入浴剤を使用したり、ゆっくりしたペースで楽しんでいただくよう工夫した支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日ごろの会話の中で、楽しみごとや出来そうなことを見出し、職員と共に、園芸活動や、料理、後片付けなどの役割や、習字、絵画、歌などの張り合いのある生活を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に応じ、散歩を日常的に取り入れたり、ドライブや買い物の外出は希望に応じて支援している。畑の野菜作りなども楽しみとなっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵を掛けず、自由に出入りできるようにしている。玄関は見守りが出来る位置にあり、入居者が外出されるときには、さりげなく職員も一緒に出かけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署にホームの図面を見てもらう等協力を得る為の働きかけをし、定期的に避難訓練を行っている。民生委員の方へも協力依頼をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士の指導を受け、嗜好に配慮したメニューを作成し、一人ひとりの食事摂取量を記録している。水分摂取量のチェックも必要に応じて行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	風呂場の暖簾を掛けたり、畳のコーナーに炬燵を設置するなど、家庭的な雰囲気作りに配慮している。鍋料理やひな祭りの行事食など季節を感じるような工夫が行われている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた椅子や箆笥などを持込んだり、写真を飾るなど居心地のよい空間となっている。また各居室の壁やカーテンの色や柄に変化をつけるなど、個別支援が行われている。		